

第一日曜日  
教会学校 9:00～  
主日第一礼拝 9:00～  
主日第二礼拝 10:30～  
その他の日曜日  
教会学校 9:00～  
聖書を読む会 9:00～  
主日礼拝 10:30～

# 日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2019 (令和1年) 6. 9

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会  
第2日曜日 礼拝後  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

## 「祝福をだまし取った男、 祝福を約束する神」

牧師 松谷 祐二

### 創世記 第二十七章四一～四五節

エサウは、父がヤコブを祝福したことを根に持って、ヤコブを憎むようになった。そして、心の中で言った。「父の喪の日も遠くない。そのときがきたら、必ず弟のヤコブを殺してやる。」ところが、上の息子エサウのこの言葉が母リベカの耳に入った。彼女は人をやつて、下の息子のヤコブを呼び寄せて言った。「大変です。エサウ兄さんがお前を殺して恨みを晴らそうとしています。わたしの子よ。今、わたしの言うことをよく聞き、急いでハランに、わたしの兄ラバンの所へ逃げて行きなさい。そして、お兄さんの怒りが治まるまで、しばらく伯父さんの所に置いてもらいなさい。そのうちに、お兄さんの憤りも治まり、お前のしたことを忘れてくれるだろうから、そのときには人をやつてお前を呼び戻します。一日のうちににお前たち二人を失うことなど、どうしてできませんよう。」

### 創世記 第二十八章一〇～一九節

ヤコブはベエル・シェバを立つてハランへ向かった。とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあつた石を一つ取つて枕にして、その場所に横たわつた。すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上つたり下つたりしていた。見よ、主が傍らに立つて言われた。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行つても、わたしはあなたを守り、必ずこの土

地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」ヤコブは眠りから覚めて言った。「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」そして、恐れおののいて言った。「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ。」ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、その場所をベテル(神の家)と名付けた。ちなみに、その町の名はかつてルズと呼ばれていた。(新共同訳聖書)

神に背き、神の祝福を祝福とも思わない人間。そのせいで歪みきつた世界。それでも回復せんとする、神の大救済計画。その中で、アブラハムとその子孫は選ばれました。神の言葉に聞き従って生きる人の幸いを示す生きた見本、「祝福の源」となるためでした。

そのアブラハムもやがて、波乱万丈の生涯を閉じます。家は息子のイサクが継ぎ、アブラハムが神から受けていた大いなる祝福の約束もまた、イサクに引き継がれました。彼にはエサウとヤコブという双子の兄弟が生まれます。神の御言葉に聞き従い、神の祝福を受けつつ生きるべき一族の三代目です。

ところが、二代目から三代目への代わり目に大変なことが起こります。年老いたイサクは兄のエサウに神の祝福を引き継がせようとしていましたが、弟ヤコブは、弟びいきの母の入れ知恵で、父が盲目になつていたのでよいことに、兄になりすまして祝福をだまし取つたのです。当時のならいとして、神の名によって父が一度祝福を宣言したら、取り消すことはできませんでした。弟ヤコブが、この詐欺のような仕方、神の祝福を受ける立場となつたのです。

これは兄弟間の遺産争いのようなものと思えば、今日のわたしたちにも理解しやすいかもかもしれません。アブラハム以来、神の祝福はしばしば、土地、子孫、豊富な家畜や飲み水、財産といった見える形であらわされてきました。エサウもヤコブも、「神の祝福」という祖父からの伝承をどの

程度信じ尊んでいたか、怪しいものですが、理屈はどうあれ、父から祝福されるということは、事実上、財産を受け継ぐこと。ヤコブとしてはそれを手に入れたという欲もわいたのでしょうか。

しかし、事の次第が分かると、兄エサウは弟ヤコブを恨み、殺意をいだきました。それと感づいた母は、急ぎヤコブを親戚のところへ逃亡させます。地上のすべての人々にとって「祝福の源」となるべきはずだった一族は、三代目にして、遺産争い、詐欺、殺害による復讐計画、家族の分裂という、惨憺たる様相を呈するに至りました。

第二十八章一〇～一九節を読む際に、以上の背景を是非とも念頭に置く必要があります。欲にかられて詐欺を働いた男が、命からがら逃亡する羽目になり、ぶつぶつ言いながら惨めに野宿する場面なのです。読者としては、「自業自得だ」と言つてやりたくならないでしょうか。いや案外、自分も似たようなところが、と共感するところでしょうか。しかしいざいざにせよ、このような男に、このような時と場所で、神が自ら現れて「わたしはあなたを祝福する。見よ、わたしはあなたと共にいる」などとお告げになる必然性が、どこにあるでしょう。この卑怯なヤコブに、祖父アブラハム以来の大いなる約束が、念入りに再確認されるとは、本人も予想だにできなかったはず。

祝福にまるで値しない、ふさわしくない、自分に、神のほうから近づいて祝福を約束されたとき、ヤコブは初めて、話半分に聞いていた言い伝えとしてではなく、実在し、約束を必ず果たされる方として神を知り、恐れおののき、信じました。

この話には、イエス・キリストを信じた者の受ける祝福、救い、の性質があざやかに示されています。だれかが自分の信仰心の深さや正しい生き方によって、「われにその資格あり」と示し得たときに祝福が、救いが来る、のではないのです。ふさわしさも資格もなく、予想もしないのに、わたしを祝福し、救おうと決意して、神のほうからイエス・キリストにおいて近づいて来られた。そう知った時、わたしたちは眠りから覚めるのです。恐れおののき、信ぜずにおれましようか。正しく生きようと思わずにおれましようか。

### 役員休任期所感

菊池 才知子

役員休任期に入り、やや解放感に浸っている一方、怠惰に陥って遂行しなかった心残りの件があります。加藤直樹先生、佐柳兄ら三人で担当した防災係として防災用品の点検管理を中途半端にしておいたことです。賞味期限切れの乾パンの缶詰が十数個、和室の押し入れに収納したままになっており、処分が必要です。我が教会の財政状況を考慮すると、欠品補充のコストも回収したいので全品無料お試し品として配布するのも憚られ、一缶百五十円なら買ってもいいという声があった時、処分するべきでした。生来の面倒くさがりがしゃしゃり出てきてチャンス逃す典型的なケースでした。教会メンバーの兄弟姉妹の皆様には誠に「出来の悪い役員」で申し訳なく思っております。

定年退職後唯一の贅沢な楽しみであった海外旅行に今年は参加してみようと思っております。八十歳の大台を迎えた昨年は、新年早々の風邪引きがなかなか治らず、ジムでの運動の疲れも回復せず、体力の低下を自覚して落ちこんでいる時に二歳上の姉が突然死したショックもあり、万事に悲観的になりインド旅行を断念しました。二十年前のベトナム旅行を思い出し、現地でウイルス性胃腸炎に感染した場合、かなり悲惨なことになると想像してしまいました。昨年はインド・デカン高原の十二年に一度開花するという「ニラクリンジ」の開花年に当たっているということで見逃すのは惜しかったのですが、旅先で連日下痢・吐き気が続くのは地獄の沙汰だし、遊興資

金も枯渇しかかっている、健康に不安がない旅程で楽しむために留保しておく必要があったのです。体力および資金の面でも第一主日も気にせず旅を楽しむ、今年最後のチャンスになりそうです。六月三十日から七月七日までロシアのバイカル湖周辺の自生植物を観察してきます。ツアーは出身大学の花卉園芸学講座の同窓生の会「花葉会」主催で博学の同窓生多数で不勉強な私向きのツアーなのです。因みに私は花卉園芸学講座出身ではないのですが、「花葉会」設立準備中の当時の教授が同講座専攻の友達と常につるんでいた私を同講座出身と誤認して会員に誘ってくださったので有難くお受けしたというわけです。「花葉会」のツアーには現地の植物学者が同行して目の前にある植物を同定しながら解説されるので在学時代よりたくさん勉強している感じがあります。ただし、植物学者は植物に関して申し分ないけれど、他のことの判断では迷惑も経験しました。二〇一五年カザフスタンに行ったとき、手を骨折した私を四日間ホテルに置き去りにする決定をしたのが、植物学者でした。目的地は容体が急変した場合対応できないド田舎だから怪我人は連れていけないというわけでしたが、外傷のない骨折は感染症の懸念はないのに。四日間通院したり、食事をしたりに通訳をつけたり、彼女が立て替えたタクシー代などの旅行保険が担保しない立替金の請求が十三万円弱だったのは仰天しました。旧ソ連の大都市は外国人旅行者が地図を手に一人で街歩きが困難でした。道路がだだっ広く街路樹がむやみに生い茂り通りの両側の街路表示が見難い、通りがかりの若者たちは現代世界の共通語英語が通じない、ホテルは外貨両替を受け付けない。両替所に行けと言われてもたどり着けない

有様で、植物学者と旅行会社の添乗員を恨みました。ムカついた記憶は忘れたいものです。役員休任からひどく離れた話になりました。

### 報告

\*五月十二日(日) 主日礼拝の中で、宍戸健太兄、高橋優美子姉の役員任職式が執り行われました。お働きを主が祝福してくださいませよう、お祈りします。

\*五月二十八日(火)、富士見町教会において、第七十八回東京教区総会が行われ、松谷牧師、大司役員が議員として出席しました。岸俊彦議長、渡邊義彦副議長、伊藤英志書記が再選され、常置委員の半数が改選されました。

\*聖霊の恵みへの感謝を込めて「ペンテコステ献金」をお捧げください。  
\*受洗、信仰告白、伝道者としての献身をお考えの方は、牧師までご相談ください。

### 《各部報告 五月度》

#### 成人会

日時 五月十九日 主日礼拝後二時半迄  
場所 教会堂会議室  
出席者 六名  
開会祈祷 下奥敏子姉  
内容  
マラキ書 旧約の最後の「章」です。  
・神は、全イスラエルの為に「掟」として、モーセに「十戒」を与えた。その上、預言者エリアを私たちに遣わし、エリアが守ってくれるから安心しなさい、と。父の心を子に、子の心を父に向けさせるように、私達が邪悪の道へ迷い込まないよ

#### 婦人会

日時 五月二十六日 主日礼拝後  
場所 教会堂会議室  
出席者 九名  
開会祈祷 菊池才知子姉  
閉会祈祷 全員順次小祈祷  
内容  
一、聖書研究  
「サムエル記 上」十一章、十二章  
十一章 アンモン人のナハシュに包囲されたギレアドのヤベシュの人々は恭順の提案をする。それに対してナハシュは残酷な条件を課した。人々は七日間の猶予を乞い、イスラエル全土に使者を送った。王サウルのいるギブアに来た使者の報告に人々は泣いた。王になってもまだ農作業に従事していたサウルは、使者の報告を聞いていうちに、神の霊が下って怒り、イスラエル全土に強く兵の招集を号令し、ヤベシュの使者に救いの約束をした。サウルは約束どおりアンモン人を打ち破った。サウルの王位擁立に反目した人々に対してもサウルは神の御業に感謝して寛大に対応した。

十二章 サムエルは士師退任のスピーチをする。  
次回 六月二十三日 「サムエル記 上」十三章〜十四章まで  
二、六月愛餐会打合せ メニューはチキンカレー 二十食分準備